

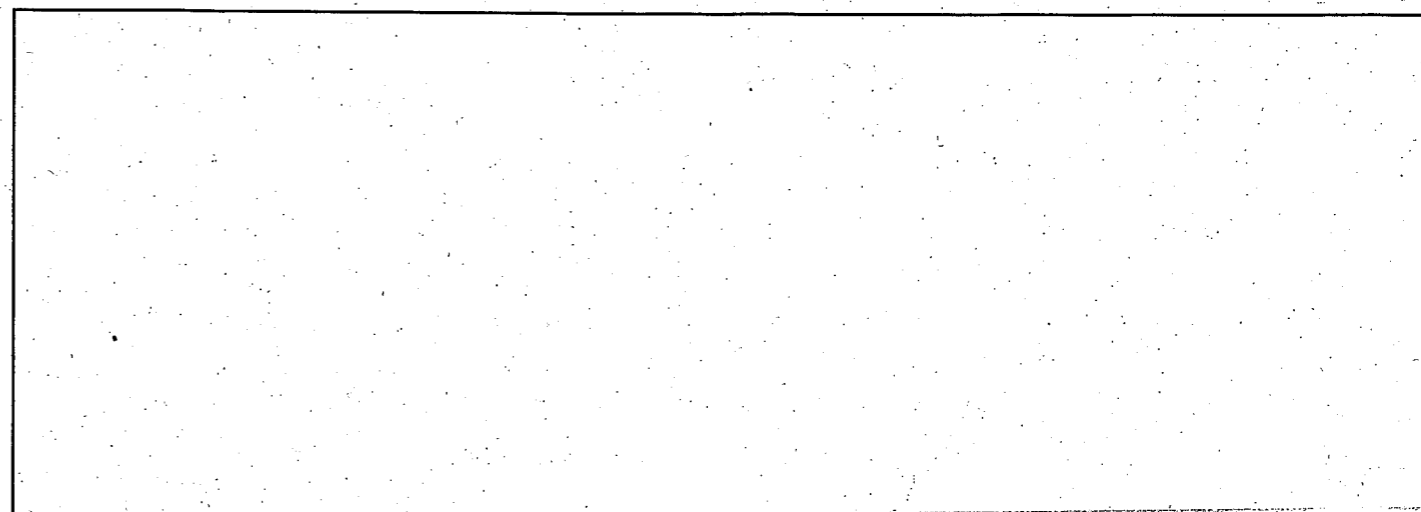
(議員-1)


支払伝票

議員名 北原正

項目	広報・広聴費
実施年月日	令和7年5月22日
金額	49,500円
内容	令和7年4月分活動ニュース001春号両面制作・印刷5,000枚
支払先	(株)東弘
支払年月日	令和7年5月22日
出納簿記入	記入済
摘要	按分計上66,000円×75%=49,500円

領収書等貼付用紙



領収証		NO 053234									
北原 正 殿		2025年5月22日									
<table border="1"> <tr> <td>¥</td> <td>6</td> <td>6</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> </tr> </table>		¥	6	6	0	0	0				
¥	6	6	0	0	0						
但し4月分広告料 活動ニュース制作印刷											
上記金額正に領収致しました											
<table border="1"> <tr> <td rowspan="4" style="writing-mode: vertical-rl;">明細</td> <td>現金</td> <td></td> </tr> <tr> <td>小切手</td> <td></td> </tr> <tr> <td>手形</td> <td></td> </tr> <tr> <td>振込</td> <td style="text-align: center;">✓</td> </tr> </table>		明細	現金		小切手		手形		振込	✓	株式会社 東弘 <small>〒102-0093 東京都千代田区平河町1-4-12 平河 TEL. 03-3230-7451(代) FAX. 03-3230-7452 適格請求書発行事業者登録番号: T1-0111-</small>
明細	現金										
	小切手										
	手形										
	振込	✓									
		<table border="1"> <tr> <td>係印</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">[Redacted]</td> </tr> </table>	係印	[Redacted]							
係印											
[Redacted]											

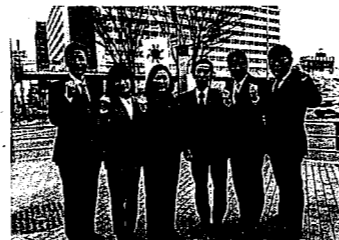
※社印、係印又は署名のなきもの、領収金額および領収日の訂正したものは無効です。

※領収書等は重ならないように枠内に貼付

Municipal news
市政
ニュース

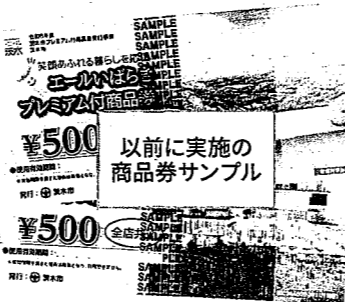
市議会公明党の令和7年度成果と取り組み

- プレミアム付き商品券の発行
- 带状疱疹ワクチンの定期接種化
- 骨髄等移植ドナー助成金制度の創設



プレミアム付き商品券の発行

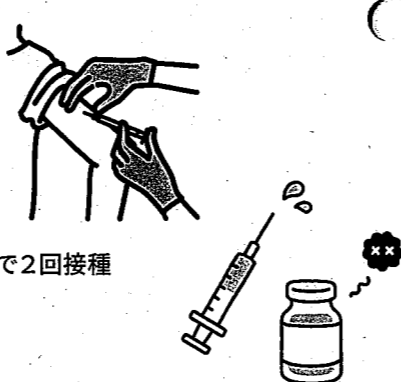
市内飲食店や小売店舗等で利用できるプレミアム付商品券
1冊5,000円の商品券を2,500円で販売 ※1世帯2冊まで



販売期間・使用期間 令和7年6月30日(月)～9月26日(金)

販売場所 市内郵便局、大型量販店
(令和7年6月中(予定)に各世帯に郵送される購入引換券が必要)

带状疱疹ワクチンの定期接種化



対象者 ●65歳の高齢者、以降5歳刻みの年齢の方

●60～64歳で免疫機能に障害を有する者

接種期間 令和7年4月1日から令和8年3月31日まで
上記以降は令和7年度から5年間の経過措置

自己負担額 不活化ワクチン ▶ 11,000円/回 ※2ヵ月間隔で2回接種
生ワクチン ▶ 4,500円/回

接種機関 市内登録医療機関(広報いばきた4月号に掲載)
※対象者には案内ハガキが届きます

骨髄等移植ドナー助成金制度の創設

対象者 公益財団法人日本骨髄バンクを介して骨髄等の提供を行った方
※令和7年4月1日以降に骨髄等の提供を行った方が対象

補助額 通院または入院1日あたり2万円(上限7日間14万円)



地域情報

Local information

日本最長の吊り橋も完成

ダムパークいばきたに
アドベンチャーレジャーパーク
GRAVITATE OSAKAがオープン
(グラビテート オオサカ)

2025
3/17
NEW OPEN

「山とまちをつなぐ」をテーマに、人・自然とつながる「ダムパークいばきた」に、日本最長の吊り橋がオープン。地域を元気にし人々を笑顔にする場所にと強い思いから生まれたこの橋は「人と人、地域と未来をつなぐ架け橋に」とのコンセプトのもとオープン。豊富なアクティビティもあります。是非足を運んでみてください。

所在地 > 茨木市大学生保 53-1
営業時間 > 9:00~18:00
入園料 > 550円(未就学児無料)

【ブリッジウォーク】
対象：全年齢(車椅子での通行も可能)
料金：大人 1,100円 小学生 550円
未就学児無料

【ブリッジバンジー】
料金：16,000円(入園料・橋通行料含む)



交通アクセスはこちらからご確認ください

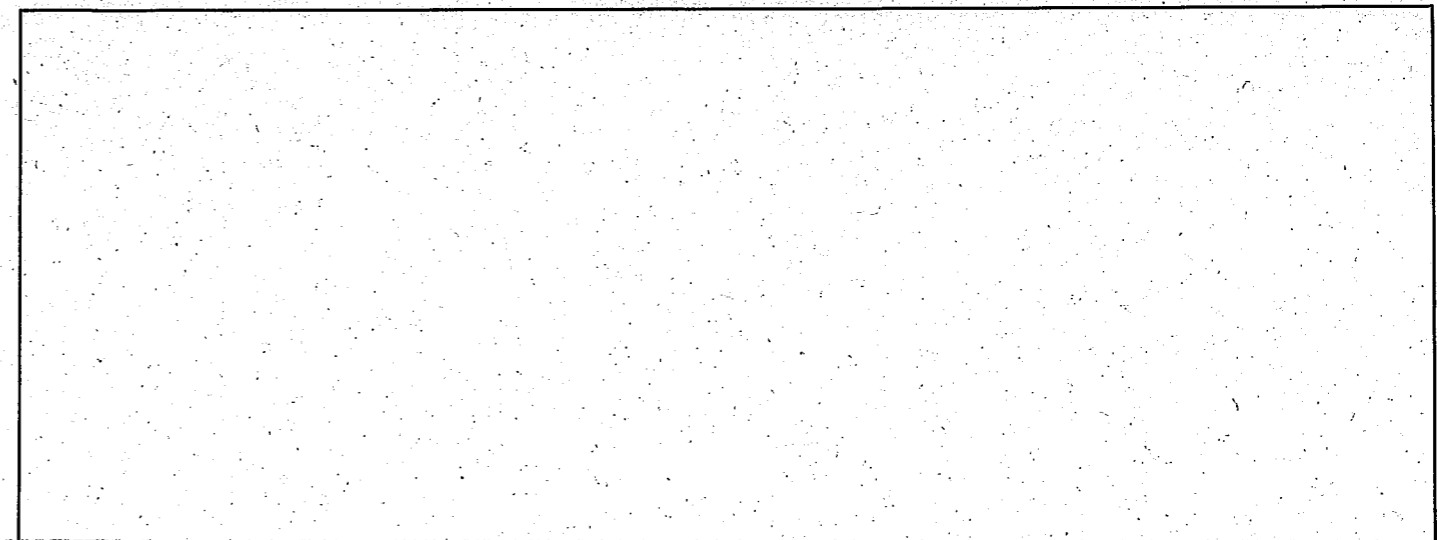


(議員-1)

支払伝票

議員名 北原正

項目	広報・広聴費
実施年月日	令和7年9月5日
金額	52,800円
内容	令和7年8月分活動ニュース002夏号両面制作・印刷5,000枚
支払先	(株)東弘
支払年月日	令和7年9月5日
出納簿記入	記入済
摘要	按分計上66,000円×80%=52,800円



NO 053277

領収証

北原 たいし 殿 2025年9月5日

7	6	6	0	0	0
---	---	---	---	---	---

但し 8月分 広告料 活動ニュース制作・印刷

上記金額正に領収致しました

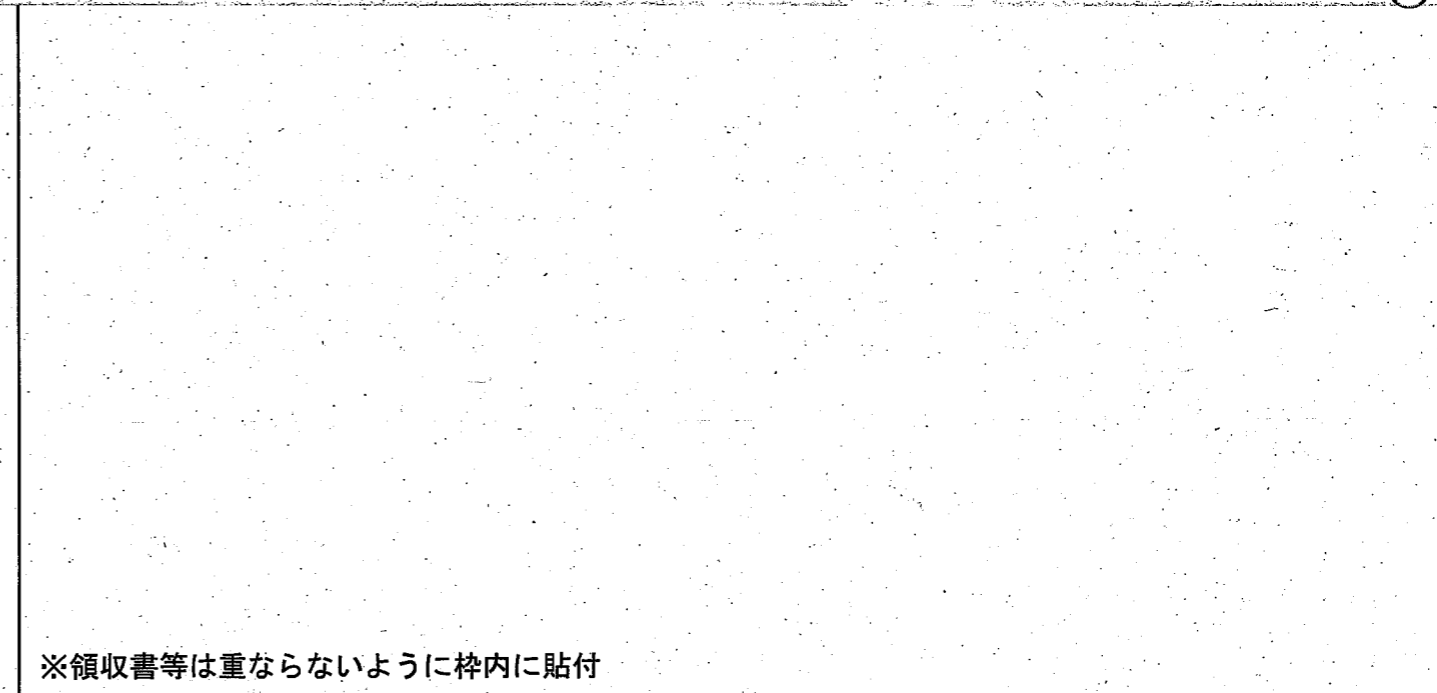
株式会社 東弘

<table border="1"> <tr> <td rowspan="4" style="writing-mode: vertical-rl;">明細</td> <td>現金</td> <td></td> </tr> <tr> <td>小切手</td> <td></td> </tr> <tr> <td>手形</td> <td></td> </tr> <tr> <td>振込</td> <td style="text-align: center;">✓</td> </tr> </table>	明細	現金		小切手		手形		振込	✓	<p>〒102-0093 東京都千代田区平河町1-4-12 平河</p> <p>TEL. 03-3230-7451(代) FAX. 03-3230-7452</p> <p>適格請求書発行事業者登録番号: T1-0113</p>
明細		現金								
		小切手								
		手形								
	振込	✓								

係印

※社印、係印又は署名のなきもの、領収金額および領収日の訂正したものは無効です。

※領収書等は重ならないように枠内に貼付



子どもの学びを支える「就学援助制度」について質問

令和7年6月定例会 2025.06.12

6月定例会の一般質問において北原は、初めて議場に立ちました。「市民の暮らしを守る」視点から、「就学援助制度」について、本市の援助の在り方を質問。



まず、制度の対象となる所得基準額について、本市では生活扶助基準額の1.15倍を基準としていること、また国の減額傾向にもかかわらず、あえて高い基準を採用していることが確認されました。

一方、物価高騰が続く中、基準額の柔軟な見直しや、制度の対象外となった世帯への段階的な援助の必要性についても提起。市からは「現行制度は生活保護世帯に準じるため、段階的援助の仕組みはない」との答弁がありました。

過去5年間で毎年500人前後が認定外となっている状況を踏まえ、今後の援助の在り方として、修学旅行費や卒業アルバム費の補助など、物価高騰に応じた援助の拡充を要望しました。

最後に、子どもたちが安心して学べる環境整備を進め、本制度が子育て世代に寄り添う仕組みとなるよう、少子化対策の一助としての充実を求め、質問を締めくくりました。

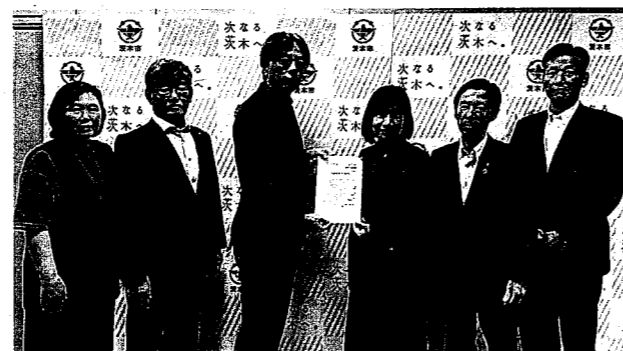
地域実績 Regional Achievements

物価高騰に対応した緊急要望が実現!

公明党茨木市議団は、国の「物価高騰対応重点支援地方創生臨時交付金」の交付決定を受け、6月5日に福岡洋一市長へ緊急要望書を提出。早期の支援実現を強く働きかけた結果、6月定例会で補正予算が可決されました。

主な施策として、高齢者世帯向けにプレミアム付き商品券を追加発行(5,000円分を2,500円で販売)。

65歳以上のみの世帯が対象で、令和7年9月末まで市内店舗で使用可能です。



国道171号線歩道の雑草を除去!

「歩道が草で覆われて歩きにくい」との地域の声を受け即座に現地を確認、関係機関に対応を依頼。見通しの悪かった歩道はきれいに整備され、安全に歩けるようになりました。

これからも皆さまの声を市政に届け、暮らしやすいまちづくりを進めてまいります。



(藤の里) ゴルフパートナー茨木店～BMWバイク店光岡自動車の間

特集2 Feature

地域交通：移動の自由は暮らしの基本

(議員-1)

山間部3地区での住民主体の取り組み

公共交通の利便性が低い山間部の課題について、上音羽・泉原・安元の3地区では、住民主体による交通確保の取り組みが進められています。

一方で、取組意向を示さなかった地区に対しても、市は「適宜対応していく」と答弁しました。

出前講座で意識変化

「出前講座・みんなで学ぶ地域の交通」の実施を通じて、地域住民の意識に変化が見られます。

質問をきっかけに、地域住民の皆様が公共交通の現状をより一層理解し、解決策を考える機会となりました。

地域の特性を生かした共助の交通手段づくりへと、一歩踏み出したことは、住民同士の信頼と絆をより深くしていると感じました。



市の役割は“黒子”として支援

行政主導から、地域の声に基づく政策づくりへと軸足が移りつつあります。市はその方向性に沿って、出前講座などの対話の場を拡充し、地域主体の検討を後押ししています。

「市民が主役の交通政策」という理念が、地域ごとの交通課題を解決する一助となるよう努めてまいります。

福祉・企業との連携を拡大

交通問題を福祉や地域ケアの課題と一体で捉える必要性を訴えました。

交通政策課では、福祉関連会議に参加するよう努力を重ねておられます。

企業・事業者への協力要請も広がるなど、こうした働きかけが、分野を超えた連携の推進力となっていくよう努力を重ねてまいります。

“暮らしに寄り添う地域交通”をつくるには、行政と地域が対話を重ねること。現場の声を起点に、暮らしを支える交通の形を一緒に考えてまいります。”



地域実績 Regional Achievements

藤の里1丁目周辺歩道の雑草除去

藤の里一丁目のネオ・コーポマンションからエディオン西側にかけての水路沿い歩道では、雑草が生い茂り、通行に支障が出ているとのご相談を住民の方からいただきました。

現地を確認のうえ市へ対応を依頼した結果、雑草がきれいに除去され、歩道の見通しと通行の安全性が大きく改善されました。

今後も、地域の声を丁寧に伺いながら、安心して歩ける環境づくりを進めてまいります。



(藤の里1丁目) ネオ・コーポマンション～エディオン西側水路歩道

支払伝票

議員名 北原正

項目	広報・広聴費
実施年月日	令和8年3月19日
金額	52,800円
内容	令和8年2月分活動ニュース004冬号両面制作・印刷5,000枚
支払先	(株)東弘
支払年月日	令和8年3月19日
出納簿記入	記入済
摘要	按分計上66,000円×80%=52,800円



領 収 証

NO 053373

北原 たいし 殿

2026年3月19日

766000

但し2月分 広告料 活動ニュース制作・印刷



上記金額正に領収致しました

明 細	現金	
	小切手	
	手形	
	振込	✓

株式会社 東弘

〒102-0093
東京都千代田区平河町1-4-12 平
TEL. 03-3230-7451 (代) FAX. 03-
適格請求書発行事業者登録番号: T1-011

係 印

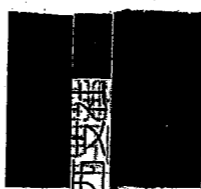


※社印、係印又は署名のなきもの、領収金額および領収日の訂正したものは無効です。

※領収書等は重ならないように枠内に貼付してください。

請 求 書

TOKO 株式会社 東弘
〒530-0044 大阪市北区東天満1-11-9 和氣ビル5階
Tel.06-6353-7570 Fax 06-6353-7571
登録事業者番号 T1-0111-0104-6087



担当	締日	日付	請求番号
	末日	2026/02/28	SK000123378

下記の通りご請求申し上げます。

10%課税 対象額	消費税額
¥60,000	¥6,000
¥66,000	

今回ご請求額	
¥66,000	

〒567-0878
大阪府茨木市蔵垣内3-19-23-1

北原ただし 様

◎お振込みは右記銀行口座へお願い致します。
口座名義：株式会社 東弘
カナ名義：カ)トウコウ

お手数ですが振込手数料は貴社ご負担でお願いいたします。

年月日	品名 / 詳細	数量	単価	延べ金額
2026/02/04	活動ニュース004 デザイン両面	1	40000	40,000
2026/02/04	活動ニュース004 印刷 5,000部 4/4C	1	20000	20,000



Topics.01 コミュニティデイハウスを守るために

高齢者の身近な居場所として地域に根付いてきたコミュニティデイハウス。その運営が、物価高騰や人件費上昇の影響で厳しさを増しています。議会では現場の「見えにくかった負担」を可視化し、制度改善につなげるための質疑を行いました。

現状 制度が実情に追いついていない

市内には18か所のコミュニティデイハウスがありますが、後継者不足などを理由にすでに2か所が閉所しています。背景には、補助金の上限額と実際の運営費との大きな乖離があります。質疑では、

- 人件費がすべての事業所で補助上限を超過し、多いところでは上限の約5倍に達していること
- 家賃も地域差が大きく、補助上限を大きく上回る事業所があること

が具体的な数字で示されました。このままでは、施設運営の負担増による担い手不足を招き、さらなる閉所につながりかねないとの懸念が明らかになりました。



市の回答 改善に向けた前向きな姿勢

この質疑に対し市は、

- 補助金のあり方を引き続き検討する
- 事業者との意見交換を行い、実態を丁寧に把握
- 大学との連携等、担い手確保の好事例を共有する

といった、今後に向けた前向きな考えを示しました。

要望 今後に向けて求めたこと

質疑の締めくくりでは、

- 家賃や人件費の実情を踏まえた補助上限の見直し
- 事業所ごとの事情に応じて使える、柔軟な補助制度

の必要性を強く訴えました。

解説) コミュニティデイハウスとは?

地域住民が主体となって運営する、65歳以上の方と要支援1・2の認定を受けた人を対象にした介護予防と交流の場です。比較的元気な高齢者が気軽に集い、交流や活動を通じて健康を維持することを目的としています。こうした大切な居場所を守り続けるため、持続可能な運営につながる支援のあり方を今後も議会で訴えていきます。

ゴミ分別は、社会への思いやりを形にする行動です。一人ひとりの選択が、次の世代の暮らしにつながっています。

リサイクル公共財



Topics.02 ゴミ問題を「思いやり」の力で解決へ

「分別が分かりにくい」という市民の声を受け、ゴミ分別とリサイクルをテーマに質疑を行いました。

現在の制度では、資源となる缶や古紙が普通ごみに混ざって焼却されているほか、リチウムイオン電池の混入による火災リスクも指摘されています。分かりにくさが、環境負荷や安全面の課題につながっている実態が明らかになりました。

そこで、スマートフォンでゴミを撮影すると、AIが分別方法や収集日を案内する仕組みを提案。誰もがその場で確認でき、迷わず分別できる環境づくりを目指しています。

市からは、アプリの活用やイベントなど、市民の行動につながる取り組みを進めていくとの前向きな答弁がありました。

Topics.03 まちづくり会社「FICベース」の今後

茨木市の中心市街地ににぎわいを生み出す取り組みの中核を担っているのが、まちづくり会社FICベース株式会社です。市議会にて、FICベースの活動が市民の実感につながっているか、また、今後も持続的に発展していくために必要な支援のあり方について質疑を行いました。

体制強化で広がる役割

計画が第2期に入中、運営体制についてあらためて確認、市からはFICベースが11名体制で運営され、事業統括、事務・経理、広報と役割分担が明確になっていることが示されました。

令和4年度には正社員1名だった体制が3名に拡充され、事業を安定的に充実させていくための土台が整ってきていることがうかがえます。

駅前空間での新たな挑戦と成果

JR茨木駅東口の「いばらきスカイパレット」では、出店者から要望が多かった火気使用について、安全性を確保しつつ、より使いやすい空間にできないかと市に問いかけました。これに対し市は「現在、社会実験として安全性の検証を進めている」と回答。市の柔軟な姿勢を評価しつつ、今後の利便性向上に期待を寄せました。



また質疑では、FICベースの具体的な成果について、

- 茨木蚤の市
過去最高となる約1万7千人が来場。中心市街地の景色を彩るイベントとして確かな手応えに
- 「はじめてのおかいもの」企画
商店街と連携。子育て世代が街に足を運ぶきっかけに
- FICカルチャースクール・相談会
これから事業を始めたい市民を支援し、37名が参加

など、地道な取り組みが確かなにぎわいにつながっていることが報告されました。

見えてきた課題と今後

一方で、公共性の高い事業であるため利益を蓄積しにくく、人材確保や継続的な運営に課題がある点も明らかになりました。

質疑では「優秀な人材を確保し、意欲を持って働き続けてもらうためには、柔軟な制度設計が必要ではないか」と指摘。市からは、業務委託への切り替えなど、利益を確保する方法も考えられる一方、公平性や制度上の課題があることが示され、「他都市の事例も参考にしながら、研究を進めていく」との答弁がありました。

FICベースが民間ならではの発想力を生かし、茨木のまちに人の流れと挑戦を生み出し続けられるよう、働く人を支える仕組みづくりを今後も求めていきます。

Topics.04 物価高騰対策を迅速に実行

物価高騰への対応を進めるため、11月28日、経済対策の財源となる2025年度補正予算案が閣議決定されました。

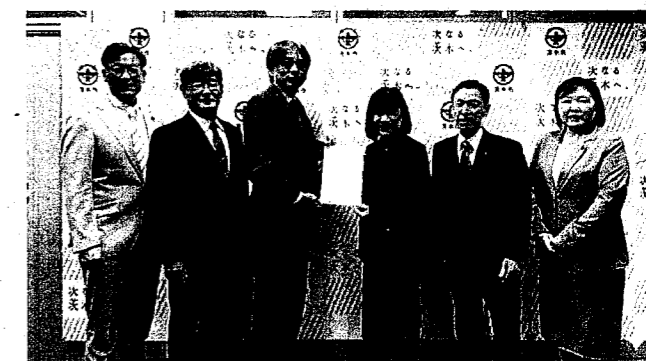
国では、重点支援地方交付金を拡充し、地方自治体による生活支援を後押しする方針が示されています。これを受け、12月1日、公明党茨木市議団は、福岡洋一市長に対し「物価高騰・経済対策に関する緊急要望書」を提出。市民生活を守るため、プレミアム付き商品券の発行など、早期の予算化を強く求めました。

補正予算が議決、支援策が具体化

国と地方の連携プレーによる働きかけで、12月定例会最終日に補正予算が議決されました。その結果、市民生活や子育て世帯を支える支援策が、スピード感をもって具体化しました。

暮らしを守るために

物価高の影響が続く中、一過性に終わらせない取り組みが求められています。今後も、国との連携を図りながら、市民生活の実情に即した支援が確実に行き渡るよう、議会での議論と働きかけを続けていきます。



市民生活への支援

プレミアム付商品券を発行
5,000円分を2,500円で販売
1世帯3冊まで(65歳以上のみの世帯は4冊まで)

子育て世帯への支援

令和7年度3学期 小学校給食費を無償化
物価高対応 子育て応援手当を支給
対象：児童手当受給世帯など
支給額：子ども1人あたり2万円

